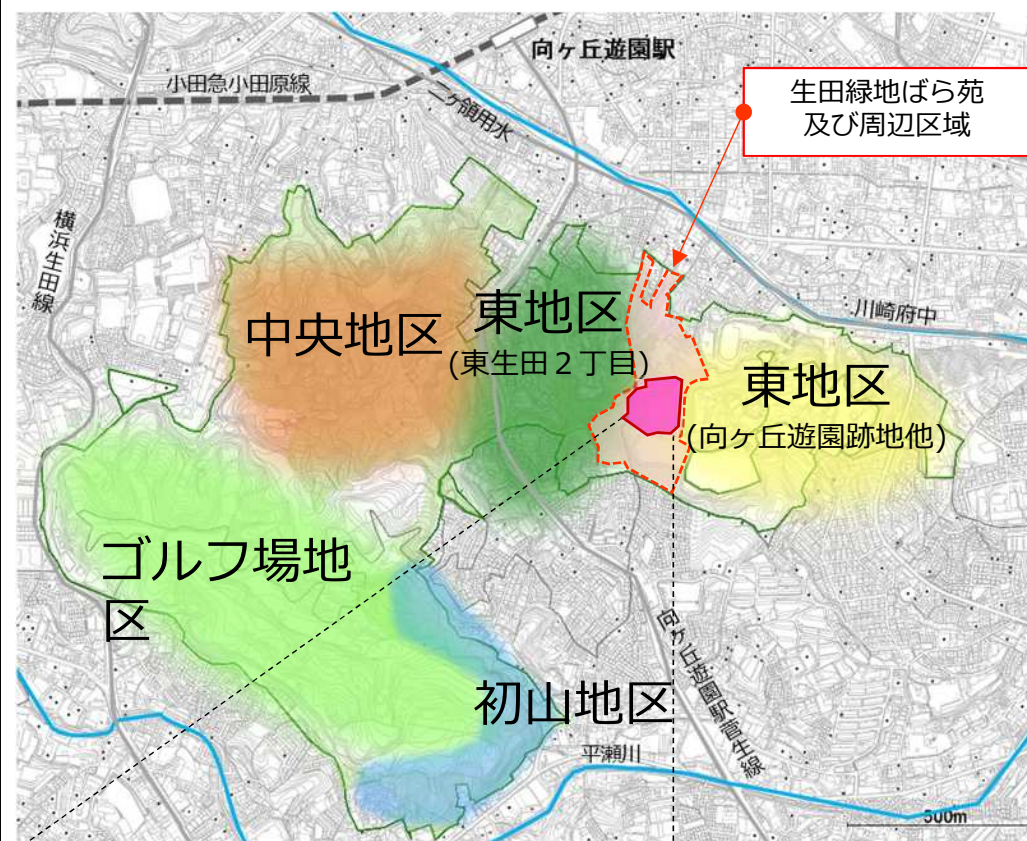


生田緑地ばら苑の概要

設置年	1958(昭和33)年(小田急向ヶ丘遊園地内の施設として開苑)	
住所	川崎市多摩区長尾2丁目8番1号ほか	
面積	ばら苑及び周辺区域7.4ha(ばら苑1.2ha、管理ヤード、臨時駐車場0.86ha)	
ばらの品種	800品種3,300株(秋は620品種2,900株) ・四季咲大輪種 (HT,ハイブリットティー) ・四季咲中輪種 (FL,フロリバンダ) ・つる性種 (CI, クライミングローズ) ・四季咲極小輪種(Min,ミニチュア) ・ハマナシやサンショウバラなどの原種のバラ	
ばら苑を構成する主な施設	植栽	バラ、サクラ、マツ、シラカシ、ツツジ、芝生等
	園路・広場等	中央苑路、中央西苑路、東苑路、西苑路、南苑路、芝生広場、第2イベント広場、カナル跡通路
	建築物	・ローズガーデンハウス160㎡、温室、コンテナトイレ(男子・女子各1基)、管理棟、作業小屋(ボランティア休憩スペース含む)、プレハブ倉庫
	工作物	・大パーゴラ、ベンチ ・白亜の彫刻(「白鳥と子供」「母と子」、「花の女神フローラ像」)
	駐車場	臨時駐車場60台(未使用:もみじ谷駐車場100台)
	自然	樹林地
管理体制	委託((公社)川崎市公園緑地協会)	
開苑期間	春・秋の年間合計45日間	
入苑料等	無料(駐車場1,000円/台)	
入苑者数	R6 春 54,919人	

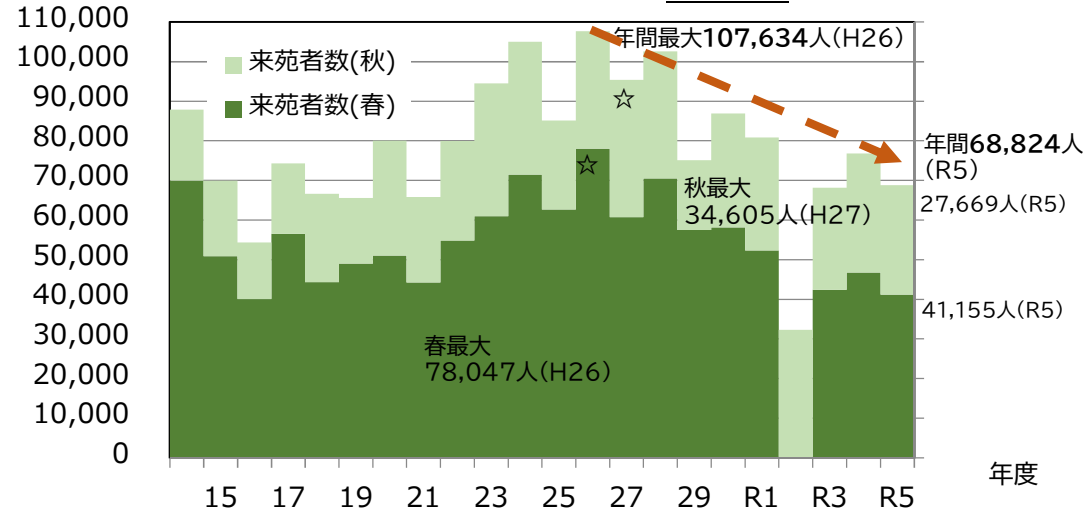
生田緑地案内図



生田緑地
ばら苑開花状況

現状整理（来園者の推移と属性・改修に向けた利用者アンケートやボランティアの声）

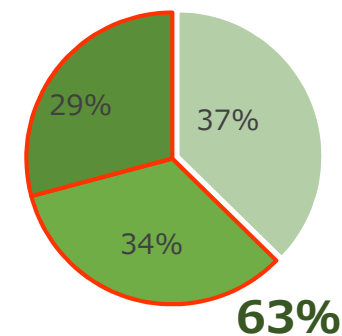
●春・秋 来苑者数の推移

来苑者数は、平成26年度の10.7万人をピークに**減少傾向**

●来苑者の属性(R5秋アンケート N=400名)

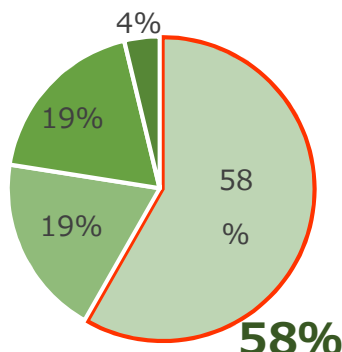
来苑者は**リピーター、市内、50歳以上の中高年**が**各6割前後**

来苑者の訪問頻度



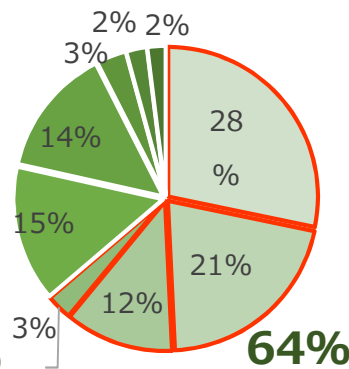
- 初めて
- 毎年来苑
- 毎年ではないが複数回来苑

来苑者の居住地



- 市内
- 神奈川県内(本市以外)
- 東京都内
- 上記以外

来苑者の年齢層



- 50～59歳
- 60～69歳
- 70～79歳
- 80歳以上
- 40～49歳
- 30～39歳
- 20～29歳
- 10～19歳
- 10歳未満

●来苑者のばら改善に向けた意見(R5秋アンケート結果 N=400名)

- ・ **ゾーニング**(緑の囲まれているのが良い)
- ・ **バラ、植栽**(バラの品種の充実・バラの数の見直し・ばら以外の草花の見どころが少ない)
- ・ **修景**(現在の見せ方を発展、バラ以外の花との混植による見せ方の実施)
- ・ **施設の改善や老朽化**(日陰・トイレ・ベンチが少ない、車イスやベビーカーでも見やすいようにバリアフリー化、親子で楽しめる場所づくり、子どもと遊べる・ゆっくり過ごせる場所の充実)
- ・ **サービスの向上**(維持管理水準の向上・専門業者による管理の実施・飲食物販施設の充実・飲食スペースが少ない、ワークショップの充実、バラ関係のイベント実施、バラを活かした飲食メニューの提供、バラを活かしたスイーツ等、バラグッズの販売)
- ・ **開苑期間**(通年開放・期間の延長・開苑時期を見ごろに合わせて欲しい・早朝の開放)
- ・ **入苑料・資金確保**(維持管理のための有料化、安価な有料化、無料は良い・クラウドファンディング・収入を得る仕組みの検討)
- ・ **アクセス**(駅から遠い・駐車場が少ない・階段がきつい・シャトルバスの増便・シャトルバスを駅からにすべき)
- ・ **多様な連携**(小田急との連携、大学生の実習場としての活用、子どもボランティアの場)
- ・ **広報等**(もっとPR、動画配信、SNS活用、イベント告知の充実)

●ばら苑ボランティアの声(R5調査、R6調査中)

- ・ **ゾーニング**(天空のばら苑のイメージを継続して欲しい、人工物が目に入らない設計、整形庭園は指定管理者の指揮のもとで、プロとボランティアが共に維持管理を行うが、これとは別にボランティアが主体となって企画運営できるボランティアガーデンを設ける)
- ・ **バラ・植栽**(ボランティアが関わるようになって充実したエリアも大切、消毒しなければいけないエリアを限定的にして、古い品種を継続、日本の気候に合った品種を増やして欲しい、ばら苑自体のあり方の検討が必要、生育不良の株の植替えを速やかに・バラを枯らさないようにすべき、除草作業が追い付いていない)
- ・ **修景**(パーゴラのツルばらの見せ方の改善、バラと相性の良い植物との混植、花壇の縁石等の工夫、建物にバラを這わせる(イギリスの一軒家風)、ミュージアムをツルばらで包んで欲しい)
- ・ **施設の改善や老朽化**(造形物の入れ替え、散水施設の設置)
- ・ **開苑期間**(開苑日をバラの開花に合わせて欲しい、バラの見ごろに開苑すべき、45日の開苑期間はもったいない、通年開放は防犯上懸念がある、)
- ・ **入苑料・資金確保**(有料化して出入り口で管理すべき、牛糞を介した牧場との連携)
- ・ **魅力づくり**(バラを使う他のイベントなどは栽培講習会、バラ苑での音楽会など以外はなくていい・ばら苑アクセスロードとの連携)
- ・ **ボランティア**(タイムリーな講習会の実施、バラの管理に特化した講習会が良い、苑の魅力はボランティアがバラの育成に大きく貢献、一般市民が主体的に育成を行うからこそ文化、講習会の講師を専任にすべき)
- ・ **広報等**(バスでの案内の実施等)
- ・ **新ミュージアム関係**(建屋の正面に大規模なバラの整形庭園を設け、圧倒的な花量で「映え」を演出、ミュージアムカフェを最高の展望所へ)
- ・ **閉園中**(現ばら苑の株を挿し木・接ぎ木し、新株を新ばら苑に定植する)

整備事例

●整備事例(現地視察箇所からヒアリング実施箇所を抽出)

	京成ばら園	横浜イングリッシュガーデン	いばらきフラワーパーク	綾瀬市光綾公園	生田緑地ばら苑
写真					
特徴	京成バラ園芸の「世界に誇れるバラの作出と日本にバラの文化を広めたい」趣旨を発信	草花や樹木、四季咲きバラを春から秋まで楽しむイングリッシュガーデン	花を愛で、自然を感じ、五感を取り戻す。「見る」から「感じる」フラワーパークを目指して再整備	個性のある新時代のローズガーデンとして再整備。フォトジェニックな世界各地のテーマガーデンで構成している	開園時は、品種の豊富さで「東洋一のばら園」と呼ばれた。現在は、「秘密の花園」として親しまれる。
バラの品種	1,600品種 10,000株	2,200品種 2800株	900品種 9,000株	150品種 680株	800品種 3,300株
植栽面積	—(30,000㎡)	2,000㎡内外	—	5,700㎡(7,700㎡)	5000㎡(12,000㎡)
整備年度 (再整備)	1959年 (1999年)	2009年 (2012年)	1985年 (2021年)	1976年 (2024年開苑準備中)	1958年
所在地	千葉県八千代市	横浜市	茨城県石岡市	神奈川県綾瀬市	本市
費用	—	整備費不明／維持管理運営費は入園料等で賄っている。整備費までは確保できない。	再整備費20億円／維持管理運営費3.04(入園料収入2.02,行政負担0.67)億円(R4年度実績)	再整備費3億5千万円／維持管理運営費3千万円(入園料2千万円,行政負担1千万円)(想定)	維持管理運営費 8千6百万円(R6年度)
管理者	民間	民間	市(指定管理者)	市(指定管理者)	市(委託管理)
入苑料	1,800～500円・小中学生500～200円・身障者1,500～500円	1,500～700円 小中学生 半額 身障者 半額	1,500～900円 小中学生500～300円、 身障者無料	(未確定) 200円～800円 65歳以上200円～600円 小・中学生100円～300円	無料
入苑者数	15万人	14万人	25.2万人(R4)	(目標)5万人～6万人	8万人
ガーデナー等	○	○	○	○	不在
ボランティア	—	○(会費制)	○(一部)	○(一部・育成中)	○

有識者の意見

●バラに関わる様々な有識者の意見を聴取



日本で希少な育種家、
日本各地の庭園デザイン、
管理指導など
マルチに活躍するガーデナー

- ・生田緑地ばら苑は、改植がされなかったことで、今では見ることが少ない「希少な古い品種」が多く残っており、資産とも見える一方で、古株が多く、樹勢が弱い。
- ・バラ文化や園芸に造詣の深い人達や専門家から見ると価値あるコレクションだが、残念ながら一般的にはその価値は分かりにくい。見せ方等を上手くすることが大事。
- ・改修の際に土壌づくりを適切に行うことが大事。



日本各地のローズガーデン
デザイン・植栽を手掛
け、バラの魅力を全国
各地で伝えるガーデナー

- ・設計時からガーデンデザイナー等の意見を組み入れながら進めることが大事
- ・庭園の中にバラだけではなく、次はフジ、バラ、アジサイなど順に楽しめると良い。
- ・ばらコーナーは春と秋だけ開園すると割り切ったほうが良い。ばら苑全体を均一にするのではなく、毎年新しいばらをみせるコーナーをつくり、環境に馴染んだものを既存の中に植えていくような管理が良い 等



バラの香りの研究、野ばらの書
籍の執筆で世界的な賞を受
賞している植物分類学等
研究者

- ・ばら苑には、ガーデナーとそれを実践できるリーダー、スタッフが必要。これを担える人材発掘が成功のポイント。



国内のガーデンを知り
尽くしたガーデン雑誌
編集長



国内最高傑作の印象派庭園を
手掛けるガーデンデザイナー

- ・ばら園の定義は実は決まっていない。バラが3000株あることよりもバラが魅力的に見える場所であることの方が大事ではないか。(見せ方によっては、1000株未満でもばら園と呼ばれる)
- ・公共(自治体)が担うばら苑の意義を大事にすると良い。バラ園は完全な民間施設もあり、貴重種を保存する植物園でもないはずで、持続性を考慮し、目指す姿を上手く作りあげて欲しい。

「生田緑地ばら苑が目指すべき3つの方向性」 (生田緑地ビジョン)

ばら苑ボランティアや来援者へのアンケート調査、専門家へのヒアリングを踏まえ、新たなばら苑の方向性について次のとおり整理しています。

継承すべき・したい資源

・貴重なばらのコレクション

苑内には、古の銘花から最新品種まで、作出年代に偏りなく、800品種、約3,300株のばらを育成・管理している。



・歴史ある庭園や施設

緑に囲まれた丘陵地内において、大パーゴラやクラブハウスなどの人工美を加えた「造苑美のばら苑」として親しまれてきた。



・市民協働でばらを育てる文化

小田急向ヶ丘ばら苑として人々に愛されたばら苑は、存続の危機を乗り越え、現在は、生田緑地ばら苑として、市民との協働により維持管理をしている。



今後の「ばら苑」が目指すべき3つの方向性

1

「サステナブル」なばら苑

持続的な管理運営、種の保存、自然循環に取り組む

2

「歴史・文化」拠点となるばら苑

これまでの歴史を継承するとともに、庭園文化の拠点として整備

3

「魅力ある」ばら苑

誰もが親しみ、関わりたくなるような庭園を整備

直面する課題

・ばらの感染症や環境の変化への対応

根頭(こんとう)がんしゅ病等の感染症や気温上昇などの環境の変化への対応として、生育環境を整えるための大規模な土壌の入れ替えや植替えが必要となっている。



・ばら苑の老朽化、庭園としての魅力向上

本苑は開設から66年経過し、修景施設(水系施設は既に廃止)、園路、トイレ、レストハウスなど全ての施設が老朽化し、ユニバーサルデザインへの対応や多様なニーズに応えるためには、大規模な改修が必要となっている。また、魅力向上に向けては、バラの品種及び株数、維持管理体制、開園期間等の検討も含めた検討が必要となっている。



・バリアフリーやアクセス性の改善などへの対応

主動線が、旧向ヶ丘遊園跡地(小田急電鉄(株)の協力)に依存しており、跡地利用計画との調整・整合が必要。また、徒歩による主なアクセスは、尾根沿いの急な108段の階段を登るしかなく、アクセス改善が求められている。



生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定について 「3つの方向性に基づく取組イメージ」

1 「サステナブル」なばら苑

～持続的な管理運営、自然環境に配慮～

ア 気象環境に合わせたバラの導入と土壌などの生育環境の整備を検討

温暖化を踏まえ、新たな環境に適したバラを導入するとともに、バラの生育環境の整備として土壌の置換もしくは、改良を検討します。

(ア) 新たな環境に適したバラの導入

既存の品種に拘らず、近年の気象環境に適した品種の導入を検討します。

(イ) 土壌の置換・改良

既存土壌への堆肥等の混合や新たな基盤層の施工等、良好な生育のための植生基盤層の施工を検討する。



‘マダム・メラニー・スパール’
HT、1905年 フランス



‘カイザリン・アウグステ・ビクトリア’ HT、1891年、ドイツ

イ 持続的に魅力的なサービスを提供できる仕組みの導入を検討

通年開放に向けた環境整備（期間に制限されない通路の整備、管理ヤードの確保）、利用料金制の導入（入苑料の設定）を検討します。

(ア) 独立採算を目指した取組み

入苑料を設定することで新品種の導入やイベント実施に必要な経費を賄い、常に魅力的な施設として持続的に運営できる施設を検討する。

(イ) 管理施設（バックヤード・倉庫等）の整理

植替え用の植栽や土等の資材を保管可能な管理施設を検討する。

ウ 自然環境に配慮したばら苑

持続可能なばら苑として、グリーンインフラ（雨水貯留機能等）としての整備や自然エネルギー（太陽光発電等）を導入を検討します。

(ア) 脱炭素社会を受けた取組み

太陽光発電システムなどの導入により苑内の電力を賄い、Zero Energy Rose garden（ネット・ゼロ・エミッションばら苑）を検討する。

(イ) グリーンインフラとしての取組み

芝生広場の植栽基盤を貯留性のある資材とすることや、レインガーデンを整備するなどグリーンインフラとしての整備を検討する。

・ 雨水を灌水に利用する仕組みを検討する。

・ バラの剪定枝や周囲の雑木林の落ち葉を活用して腐葉土とし、肥料として活用することを検討する。

(ウ) 減農薬を目指す取組み

・ 耐病性が強い新品種を導入し、減農薬による維持管理の推進を検討する。

生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定について 「3つの方向性に基づく取組イメージ」

2 「歴史・文化」拠点となるばら苑

～歴史やバラのコレクションを継承、庭園文化の拠点として再整備～

ア 希少品種となったバラの継承・環境にあったバラの新植

開園当初より育て、収集し、育ててきたバラのコレクションは、本苑の歴史を象徴するものとして選別した上で、継承するを検討しま
(※)コレクションの整理

・ 歴史を象徴する貴重なバラの継承を検討する。なお、継承手法については、現在の株の保存や接ぎ木による保存を検討する。

イ いつも新しい感動を提供するばら文化の拠点

「東洋一のバラ園」としてバラの文化を先導してきた向ヶ丘遊園ばら苑の歴史を踏まえ、今後100年もバラの文化を先導し、来苑者の心を魅了するばら苑を目指します。なお、植物園的な現ばら苑のスタイルの継承に拘らず、多様な整備事例（テーマパーク的なばら苑、イングリッシュガーデン、回遊式庭園）を参考に有識者・民間事業者等の意見を踏まえながら、整備内容を検討します。

(ア)バラを活かした庭園

- ・ 常に新たな感動を与えるような、バラを活かした庭園の実現を検討する。
- ・ ガーデンデザイナーやガーデナーを迎え、いつも新しい感動を提供するための管理体制を検討する。

(イ) バラ園のテーマや季節に合わせたコンテンツの提供

- ・ 季節に合わせた飾りつけ・イベント等の実施で年間通して楽しめる場とする。
- ・ レストランや売店などで庭園のコンセプトに合わせたメニュー・グッズや季節限定メニューの提供などを充実させ、何度も訪れる楽しみの付加を検討する。



多様な植物との混植

はままつフラワーパーク



完成度を高める管理

浜名湖ガーデンパーク



見て楽しめる提供手法

いばらきフラワーパーク



季節に合わせた飾りつけ

横浜イングリッシュガーデン
(出典:公式HP)

ウ 多様な庭園空間を有する庭園文化の拠点

庭園内をゾーニングすること等で、エリアごとに四季折々に独自の魅力を発信することで、多様性に富んだ庭園空間を創出を目指します。

(ア) 多様性に富んだ庭園空間の創出

バラの各品種に合わせた植栽や多様な植物との組み合わせ、新鮮な配置レイアウトや見せ方などを検討する。



新鮮な配植デザイン

浜名湖ガーデンパーク



構造物とのコンビネーション

はままつフラワーパーク

「3つの方向性に基づく取組イメージ」

3

「魅力あるばら苑」

～誰もが親しみ、関わりたくなるようなばら園づくり～

ア 施設の更新・充実

大パーゴラやレストハウスなどの人工美を加えた「造苑美のばら苑」として親しまれてきたが、整備後66年以上が経過し、レストハウスや園路、修景施設が老朽化しており、トイレも仮設トイレとなっていることから、ユニバーサルデザインに基づくとともにインクルーシブな空間となるよう再整備を検討する。

(ア) レストハウス・修景施設の更新

・利用者ニーズに合わせた休憩・便益施設を兼ねたレストランや売店などの飲食施設を整備を検討する。

・子連れや障害のある方も利用しやすいトイレを設置を検討する。

(イ) ユニバーサルデザインに基づきインクルーシブな空間となるような施設整備

・移動円滑化のための施設整備や、モビリティの導入を検討する。

・車椅子やベビーカーでも円滑に移動できる回遊路の整備を検討する。



花みどり文化センター

国営昭和記念公園



屋外の休憩スペース

国営越後丘陵公園



次世代電動車椅子‘WHILL’

イ 魅力あるコンテンツの充実

ドライフラワーづくり、香水づくり等のワークショップ、ばらの育て方等講習会等の体験型コンテンツを充実するとともに季節に合わせたイベントの実施（バラにとらわれない花の開花に合わせた開園テーマの設定、ハロウィンやクリスマスに合わせた装飾、フォトスポットの設置等）による魅力づくりを検討します。

(ア) 季節に合わせたイベントや非日常を感じられるイベントの企画・実施

体験型ワークショップや来園者参加型イベントや季節感を感じるディスプレイなどの実施を検討する

ローズガーデン
ウエディング

国営越後丘陵公園



ハロウィン・ディスプレイ

横浜イングリッシュガーデン(出典:公式HP)



ワークショップスペース

いばらきフラワーパーク

ウ 協働の取組の強化・拡充

新たなばら苑の魅力向上に向け、ボランティア育成にかかわる取組の強化やボランティアが主体的に活動するエリアの継承を検討する。

(ア) ボランティア活動サポートのための環境整備

・倉庫や更衣室の更新や、ボランティア同士の交流スペースなど、より快適に活動できるような施設整備を検討する。

(イ) ボランティアの育成に係る仕組みづくり

ガーデナーやガーデンデザイナーを迎え、スキル向上のための各講習を充実させ、ステップアップできる仕組みをつくるための検討を進める。

生田緑地ばら苑
ボランティア活動風景

ボランティア講座イメージ

「生田緑地ばら苑の再整備基本計画」

再整備基本計画図については、現在のばら苑の再整備を基本(面積等)とし、トイレ等現在の整備基準を反映するとともに不足している飲食物販等の機能を追加しました。また、ばら苑周辺の園路や駐車場の舗装、管理柵等とばら苑の整備に伴って必要な周辺整備を想定しています。

●生田緑地ばら苑現況図



区分	数量	単位
ばら苑		
植栽地	12,000	m2
ばら・サクラ・マツ・シラカシ等	5,000	m2
園路	園路等	4,890 m2
	カナル跡	400 m2
広場	芝生広場	1,330 m2
便益施設	トイレ棟	66 m2
	管理棟内トイレ	4 m2
管理施設	管理棟	160 m2
	温室(倉庫)	150 m2
その他		
植栽(バラ)	オールローズコーナー	1,600 m2
便益施設	臨時駐車場	8,600 m2
管理施設	資材倉庫・ボランティア詰所	280 m2

再整備基本計画の前提条件

①ばら苑 1.5ha
(現状と同程度の面積と内容)

- ・バラ 800品種3,300株・その他植栽
- ・庭園空間(大パーゴラ等)
- ・園路、芝生広場
- ・管理棟、倉庫、ボランティア詰所

②現在不足している機能の整備

売店・飲食店・便所



③周辺区域における整備

駐車場・周遊散策路・管理用通路

※新たなミュージアムとの調整が必要

●生田緑地ばら苑再整備基本計画図(案)



「民間活力導入に向けた検討」

本事業については、民間活用（川崎版 PPP）推進方針に基づき、改定したビジョンに基づく「新たなばら苑の方向性」を踏まえ、PPPプラットフォームによる意見聴取（個別ヒアリング・4社）を実施し、**民間事業者の事業への関心、整備や管理運営への提案、料金設定の要望、管理運営に関わる多様な提案**を受けています。

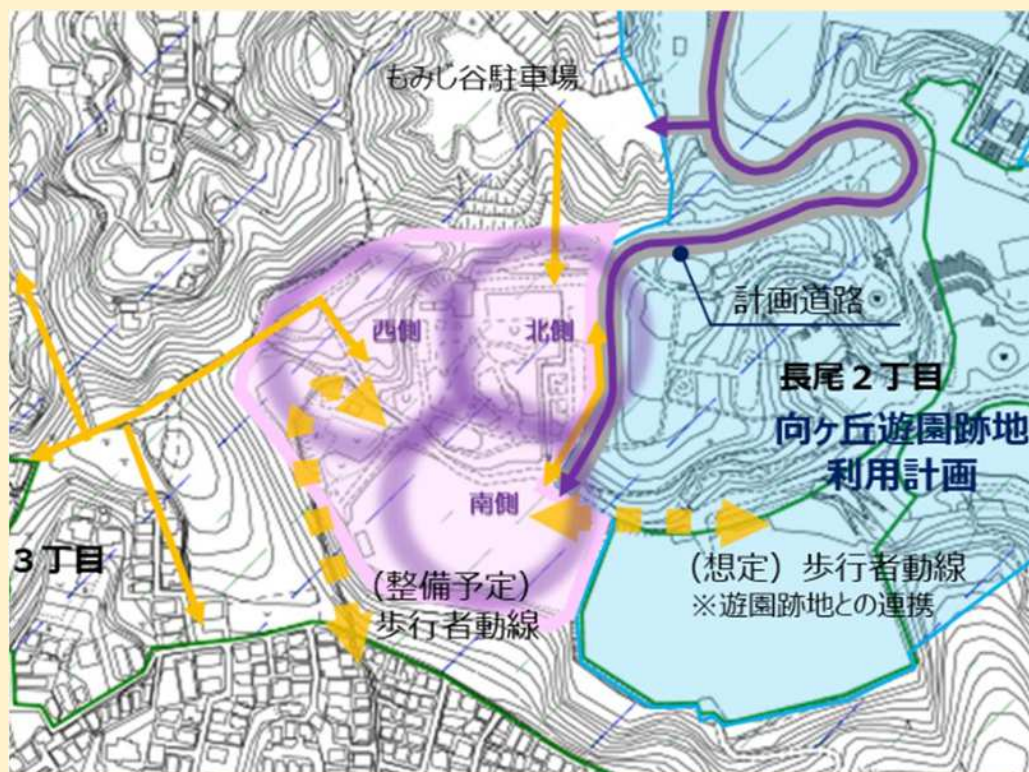
このような意見を踏まえ、本事業については、整備・管理運営において民間活力導入により「公園緑地における収益性の確保・向上と維持管理に係る財政負担の軽減」、「民間のアイデア、ノウハウの効果的な導入の促進」等が期待されることから、**魅力的かつ効率的・効果的な市民サービスの提供に向けて、民間活用手法を基本に次の考え方（案）により検討を進めます。**

項目		現状	考え方（案）	具体的な取組例
事業手法	整備	—	民間事業者の自由で柔軟なノウハウを最大限活かせる手法を導入	DBOやP-PFIの採用
	管理運営	委託		指定管理者制度／設置管理許可制度の採用
料金体系		無料	持続的な運営の基礎的な財源及び民間事業者のインセンティブとして有料化の可能性と収益還元の仕組みを検討	利用者による一部負担／収益を活かした取組
開苑期間		春・秋の年45日間の開放	施設の価値の最大化や有効活用の観点から通年開放を目指す	通年開放（夜間は閉鎖管理を想定）
管理運営	飲食等	キッチンカーによる提供	来園者のへのサービス向上や通年開放に対応した施設を導入	カフェやレストランの設置／ばら苑らしい飲食／来園者増に向けたサービス
	講習会等	開園期間中（ばらに特化）	市民サービスの向上及び施設の有効活用・価値の最大化に向けて導入	通年における実施（園芸全般など講習内容の多様化）
	ワークショップ	—	市民サービスの向上及び施設の有効活用・価値の最大化に向けて導入	ドライフラワーづくりやばらの香水づくりなど気軽に参加できる内容の充実
	ボランティア	様々な管理作業を実施	ばら苑の魅力向上に向けて、ボランティアのすそ野を広げ、育てる仕組みを導入	ガーデナーを配置し、技術向上の機会を設けた仕組みづくり

「生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリアとしての検討」

ばら苑の検討に加え、新たなミュージアムの開設地が決定されることを踏まえ、ばら苑及び周辺区域については、**検討するエリア**において**施設の配置や機能の合築等も含めて検討する必要がある**ことから、**生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリア(3.5ha)**としてまいります。エリア内の**最適な配置については、既存の樹林地等の保全に配慮したうえで、●多様な魅力の融合と一体性によるエリア全体の価値・魅力向上、●自然・歴史・文化・芸術等各機能との出会いの場、●気軽に楽しく過ごせる快適な環境、●自然環境や周辺景観へ配慮した空間づくりを進めてまいります。**

また、今後は、**再整備エリアとして施設配置も含めた事業性の確認や管理運営について、民間活用の導入に関するプロセスの中で検討**してまいります。



＜配置する主な施設＞

施設名称	機能・配置条件
花と緑の拠点 (ばら苑)	(現在) 令和6年10月時点で約1.5haですが広さは検討中※管理棟、植栽範囲、敷地内通路など含む
様々な交流の場 (新たなミュージアム)	新たなミュージアムの延床面積は 9,500㎡～11,500㎡
憩い・賑わい・防災機能としての オープンスペース	まとまった空間（建物や大規模は工作物等がなくオープンなスペース）
駐車場等	障がい者用、学校など団体バス用
エリア内通路	回遊性のある通路、管理用通路

※エリアに配置する施設の概要です。今後詳細を検討します。

生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリア

配置イメージ(北・南・西)

計画道路 (W=9.5m)

歩行者動線

生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定について 「スケジュール」

本方針は、「新たなミュージアム」の開設地決定(R7.3予定)を踏まえ、一体整備に向けた検討を深める事項があることから、新たなミュージアム管理運営計画の策定に合わせて、令和7年度中に取りまとめ、令和8年度以降に再整備に向けた事業者公募等を予定しています。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
生田緑地ビジョン アクションプラン(案)	具体的な取組（案） （詳細内容・5か年の目標等）	生田緑地ビジョンアクションプランに基づく取組の推進	
生田緑地ばら苑管理運 営整備方針	各拠点の整備内容等の深度化 エリア内の配置等を検討 事業化に向けた検討	サウンディング調査 整備・管理運営手法等の検討の深度化 一体的な検討	生田緑地ばら苑管理運営 整備方針に基づく取組の推進 一体的な取組の推進
新たなミュージアム 関係	新たなミュージアム基本計画	新たなミュージアム管理 運営計画	新たなミュージアムに整備に向けた 取組の推進